

どうすれば自分一人でできるようになるのか。効率的にミスなく仕事ができるようになるためのアイデアは、生徒自身ももっています。生徒同士で考え、話し合って改善したことにより成果が出ると、大きな自信につながるのではないのでしょうか。

③ルールを守り、仲間と協力し合えば、大きな目標も達成することができるという成功体験

職場は組織です。決められたルールを守り、時間や品質を意識しながら一人一人が自分の役割を果たすことで、一人では成し遂げることのできない大きな目標を組織として達成することができます。自分の目標を達成することが、クラスや学校の大きな目標を達成することに繋がっていると実感できる機会もつくっていただきたいです。

2. 作業学習やその他の学習で、教職員に振り返っていただきたいこと

①「障害」を上手くいかない理由にしない

上手くいかないときに「障害の程度が重い」ことを理由にしたり、関わる大人の思い込みによる「生徒の限界」を作ったりしていないでしょうか。教職員が「無理だろう」と思った瞬間に、生徒が新たな活動を試すチャンスを失ってしまいます。

「丁寧に」「きちんと」「なめらかに」「きれいに」「ちょうどよい」などの曖昧な表現も、上手くいかない大きな要因となります。作業学習の中で生徒から出た質問や、一度指示をしたことが、次の授業で繰り返すことがないよう、すぐに工程分析やマニュアルの改善に活かしてください。作業が上手くいかない要因は、生徒自身ではなく生徒をとりまく「環境」にあることが多いのではないのでしょうか。

生徒が成長し続けるためには、生徒の可能性を信じて、本気で期待をし続けることも大切です。

②生徒との距離を適切に保つ

生徒と教職員との距離が物理的に近いと、必要以上の声かけや手助けをしてしまいます。困ったことがあっても、真横に先生がいていろいろなことを察してもらえるのであれば、生徒が自分から発信する必要がありません。教職員の先回りの手助けが多いと「困る経験」をするチャンスや、困ったことが発生したときに自分から他者に協力を求めるチャンスがありません。教職員が常にすぐ近くにいるときには依存的だった生徒にも、作業学習の中で教職員が物理的に生徒との距離をとったことで、自分でやろうとする姿勢が生まれました。

③成功体験を増やす

作業量が少なかったり、その都度教職員の指示がなければ仕事ができなかったりする環境においては、生徒は、作業する時間よりも待機（何もしていない）時間が長くなってしまいます。

また、適材適所が実現できていないため、殆どの作業を教職員が代行している場面も見かけます。教科の授業や係仕事で把握している生徒の得意分野を、作業学習で最大限に活かしていただくことで、より多くの成功体験を積んでいただきたいです。



④安全・衛生への配慮を十分に作る

作業中の姿勢、重量のある物を運ぶときの身体の使い方、光(目)・騒音(耳)・粉塵や土埃(呼吸器)・ウィルス(感染症)・寒暖などから生徒の身体を保護する対策はなされているでしょうか。

道具や設備を安全に取り扱えるよう指導するだけでなく、作業スペースの確保、設備の配置などにも十分に留意する必要があります。生徒の行動特性や身体機能などを考慮しつつ、安全且つ効率よく作業できる環境となっているかをあらためて御確認ください。

⑤地域で生活するうえで必要な言葉を使う

例えば、食品加工の作業学習で、「おーぶん」「ふおーく」「らっぷ」など、一般的にはカタカナで表記される名称を、校内のマニュアルや掲示物では平仮名で表記されていることがあります。名称をカタチで記憶する特性の生徒は、学校の外で困ることはないのでしょうか？

作業日誌などの記載についても、生徒の誤字や脱字をそのままにせず、必ず生徒と一緒に修正をしていただきたいです。



⑥教職員は生徒の手本である

作業学習においても、教職員は生徒の手本です。教職員の服装、言葉遣い、マナーは勿論ですが、適切な作業工程で作業していなかったり、道具を正しく使えていなかったりすると、生徒は「手本」のとおり習得してしまう可能性が高いのです。生徒にとって最も身近な社会人として、常に「生徒の手本」であることを意識していただきたいです。

⑦人権への配慮をする

教職員の言葉や働きかけについて「もし自分が生徒だったらどういう気持ちになるか」という視点で、生徒との関わり方や掲示物の表記などを一人一人の先生が振り返ることで、生徒の「人権」が守られ、さらに充実した学校生活をおくることができるのではないのでしょうか。



3. 学校に期待すること

①作業学習を充実させるための組織的な取組み

教科との連携、外部専門家との連携、他部門・他学年との連携、就労支援アドバイザーの活用など、組織的な取組をしていただくことを期待しています。

②他校との交流

同じような取組をしている学校が都内にもたくさんあります。生徒のためにより良い授業にしようとお互いに授業を見学しあったり、情報交換をしたりしている意識の高い教職員も大勢います。今後、定期的且つ継続的に学校間の交流ができるような仕組みができることにも期待をしています。

企業関係者とともに授業改善をすすめて教員が感じたこと

専門的なアドバイス①

作業時間内の達成目標を設定する、検品により製品の質を確認する、分業により個々の責任を明確にする、顧客サービスを意識するなどビジネスの基礎的な考え方のアドバイスをいただきました。

専門的なアドバイス②

その作業班特有の専門的事項(作業手順・効率・安全・衛生など)について、専門的知識を基にしたアドバイスをいただきました。

就労先で求められる技能や態度を具体的にイメージするのは難しい場合がありますが、企業との連携により、育成のポイントが明確になりました。

職業人としてのルールやマナー

一般企業で働く上で必要となるコミュニケーションや、職場の規則やルールを守るなどのビジネスマナーについてアドバイスをいただきました。

授業改善に有効に活用するには、授業者だけでなく、進路担当者や作業学習を担当する教員の役割が重要となります。



Ⅲ 知的障害特別支援学校高等部普通科の職業教育の充実事業（本報告書21ページから）
Ⅳ 特別支援学校の職業教育・キャリア教育の研究開発事業（本報告書77ページから）
の二つの事業では、就労支援アドバイザー等の企業関係者を外部の専門家としてアドバイスを受け、自立と社会参加をめざした教育を一層推進するために、知的障害がある生徒の作業学習の授業改善を行いました。

たとえ障害が重くても、障害の特性や身体の状態に応じた工夫をすることで「一人ができる」ことが増えた事例を紹介しています。

本報告書については、「〇〇さんの」、「〇〇班の」事例ではありますが、生徒の実態や作業内容、作業環境が異なっても、授業改善の視点は共通するものであると考えます。

各学校においては、本事例を参考に授業の振り返りを行い、生徒一人一人が、「できた」という達成感がもてる授業づくりの参考としてください。

就労支援アドバイザーの活用方法

ビジネスマナーについて企業関係の方にアドバイスしてほしいです。

現場実習等への協力企業を増やすなど、進路先の開拓をしていきたいです。

作業学習で新しい商品開発をする時はどのような点に工夫した方がよいでしょうか。



【学級担任】

作業学習や現場実習はもとより、学校生活全体を通じたキャリア教育・職業教育を充実させていく際に、このように感じることはありませんか。そのような時には進路担当の教員と協力し、就労支援アドバイザー等を積極的に活用していきましょう。

企業の視点で学校生活や授業を見直すことで、さらに「働くこと」への意識作りが出来るようになります。



【進路指導担当教員】

就労支援アドバイザーは、民間企業の事業主として障害者雇用の経験のある方や、障害者の就労支援に関わった経験のある方がたくさん協力していただいています。

作業学習等の授業改善の助言や教員へのアドバイスなど、利用手順は簡単ですので、一度相談してみましょう。